

小野ゼミボーイで良かった？

第10期 磯邊 海舟

「慶應に入った意味ってなんだろう？」

大学1・2年当時の自分は、こう自問しながら2年間を過ごしていた。慶應に入った意味として、今の友人に会えた。自分の経歴に高学歴という箔が付く。というように、考える人もいるかもしれないが、慶應に入らなかったとしても、今の友人と同等の友人はできていただろうし、学歴に関しても例えば、早稲田でも対して差はなかつただろうと考える自分は、これらの答えは慶應に入った意味とは考えられなかった。当時の自分にとって唯一、慶應に入って良かったと感じていたのは、他大の女の子に出会った時、慶應に通っているというだけで簡単に釣れるという慶應ボーイのブランド力だけであった。

でも、今、もう一度同じことを自問したら、即答できる。「小野ゼミ生になれたこと」と。「なぜ」を徹底的に追及する、1つの物事を徹底的に考え抜く、小野ゼミの全ての活動の根幹には、このような姿勢が存在し、入ゼミ前には、「勉強＝知識を詰め込んで試験で点数を稼ぐゲーム」と考えていた自分にとっては、なぜを追及し、熟考して答えを出す、「小野ゼミでする勉強」が楽しくて仕方がなかった。そして、こんな楽しい勉強ができる小野ゼミに入れたことが、自分にとって慶應に入った意味となった。初めて、心の底から思った。慶應ボーイで良かった。と。

「小野ゼミに入った意味ってなんだろう？」

来年から社会人となる、大学4年生の自分は、こう自問しながら生活している。小野ゼミで得た価値あるものはたくさんある。なぜを追及する姿勢、何かを熟考することの楽しさへの気づき、膨大なタスクをこなす要領や根性など。けれども、これらの能力を今後、社会で活かして初めて小野ゼミに入った意味があると言えるのかなと思う。試験でもスポーツでも、事前の勉強や練習で得たものを本番で活かし、結果を残して初めて、勉強や練習をした意味があると言えるのと同じように。慶應ボーイのブランド力を活かし、女の子を釣って初めて、慶應ボーイになった意味があったと言えるのと同じように。自分は、小野ゼミで活動した2年間に絶対的な確信がある。だって、こんなに自分の成長を実感しながら過ごした2年間は、他になかったから。だから、自分にとって小野ゼミに入った意味は必ずあると思っている。

とりあえず、今はまだ、これは暫定的な回答にすぎないが、数年後、きっとそう遠くない未来、社会に出て、小野ゼミで得たものを活かして活躍した先に、小野ゼミに入った意味として即答できる自分がいると思う。そしてその時には、心の底からこう思える自分がいると思う。

小野ゼミボーイで良かった。と。